

令和6年10月22日

研修だより 40号



附属浜松小中の参観を通して②

小笠原康晃

前号の続きです。

4年2組の図工では、段ボールをつかった造形遊びをしていました。天気が良ければ、校内にある小さな森の中で授業をする予定でした。森の中で秘密基地を作る活動だったようです。雨が降っていたため、図工室での活動になりました。

1年1組の生活科では、飼育している動物について話し合っていました。今までの活動をふりかえり、今後どうしていったらよいかを考えていました。

5年1組の社会科では、工業の学習のまとめとして、「自分が経営者だとしたら、どんな理念のもとで自動車工場を経営したいか」ということを話し合っていました。場面設定をすることで、子どもたちに課題を身近に感じてもらえるようになっていました。

子どもたちへの十分な体験活動や調べ学習が根底に合った授業ばかりでした。

表面的なものではなく、十分な活動や事前学習があるからこそ、話し合いが深まっていったと感じました。

そこで行っていた活動や学習は特別なものではありません。

今の学校にあるものや地域にあるものを活かした活動や学習をおこなっていたと思います。

毎回の授業でこのような準備をすることは難しいかもしれません。

しかし、「この单元だけは」というときに、力をいれて実施することで授業力の向上や授業改善に繋がると感じました。